

参考) 事前アンケート

本セミナーへの参加申し込みがあった110件の回答を集計したものです。

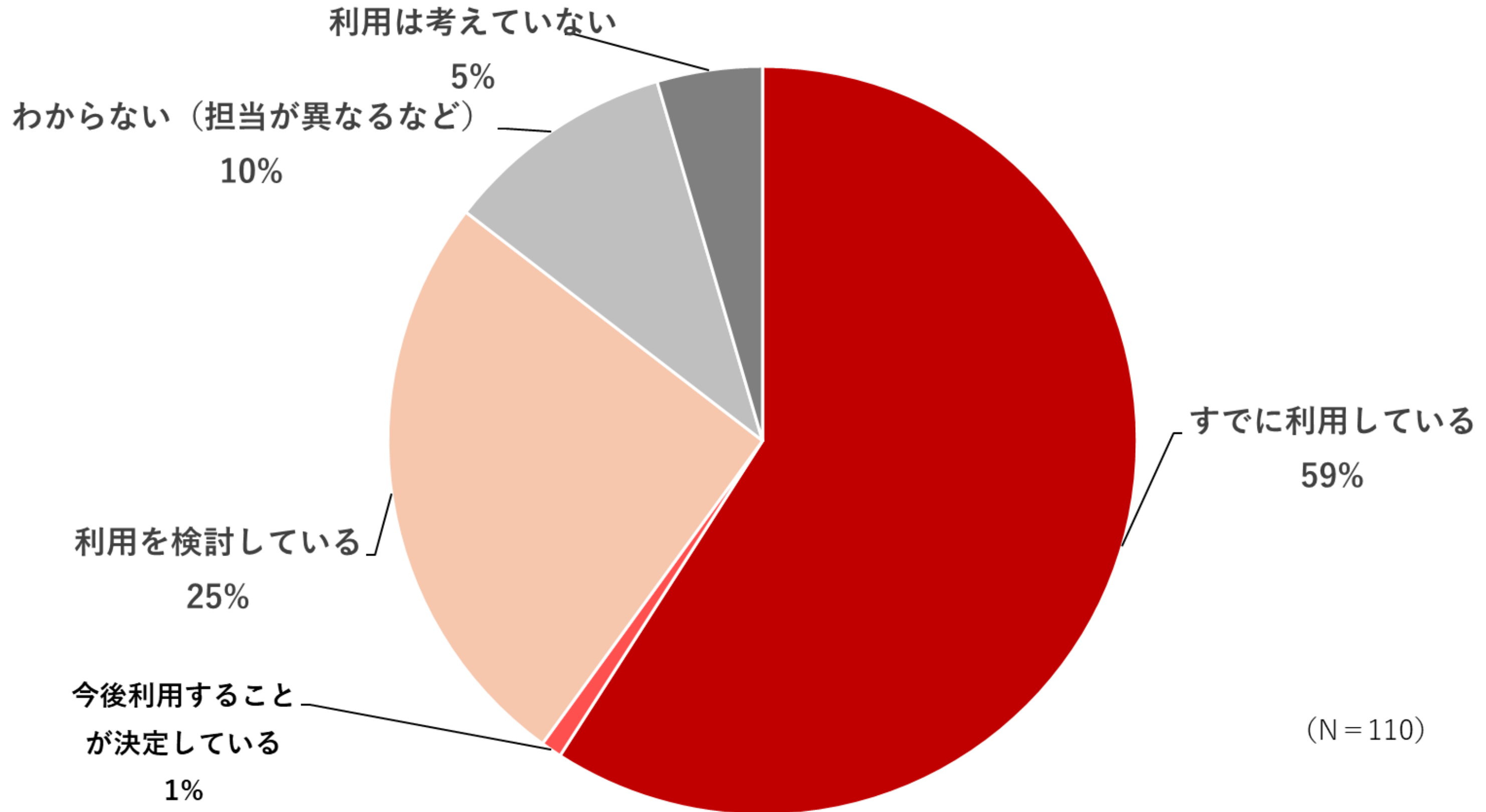
※生成AIへの関心がある方が対象となるので、数値は高めに出ていることにご注意ください。



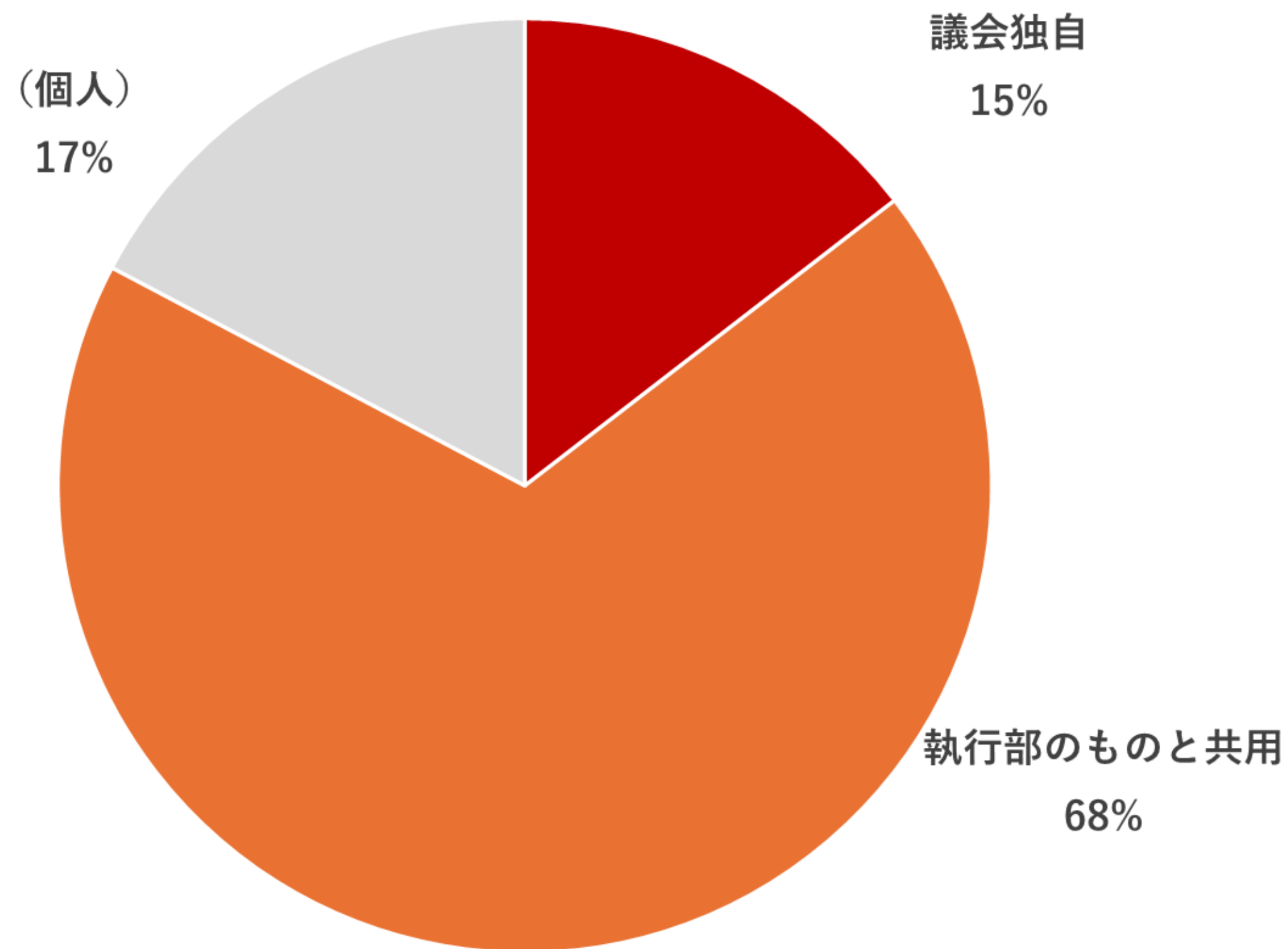
IDI

一般社団法人Maniken
早稲田大学デモクラシー創造研究所

あなたの議会で生成AIを業務に利用していますか？ (私用のアカウントは除きます)

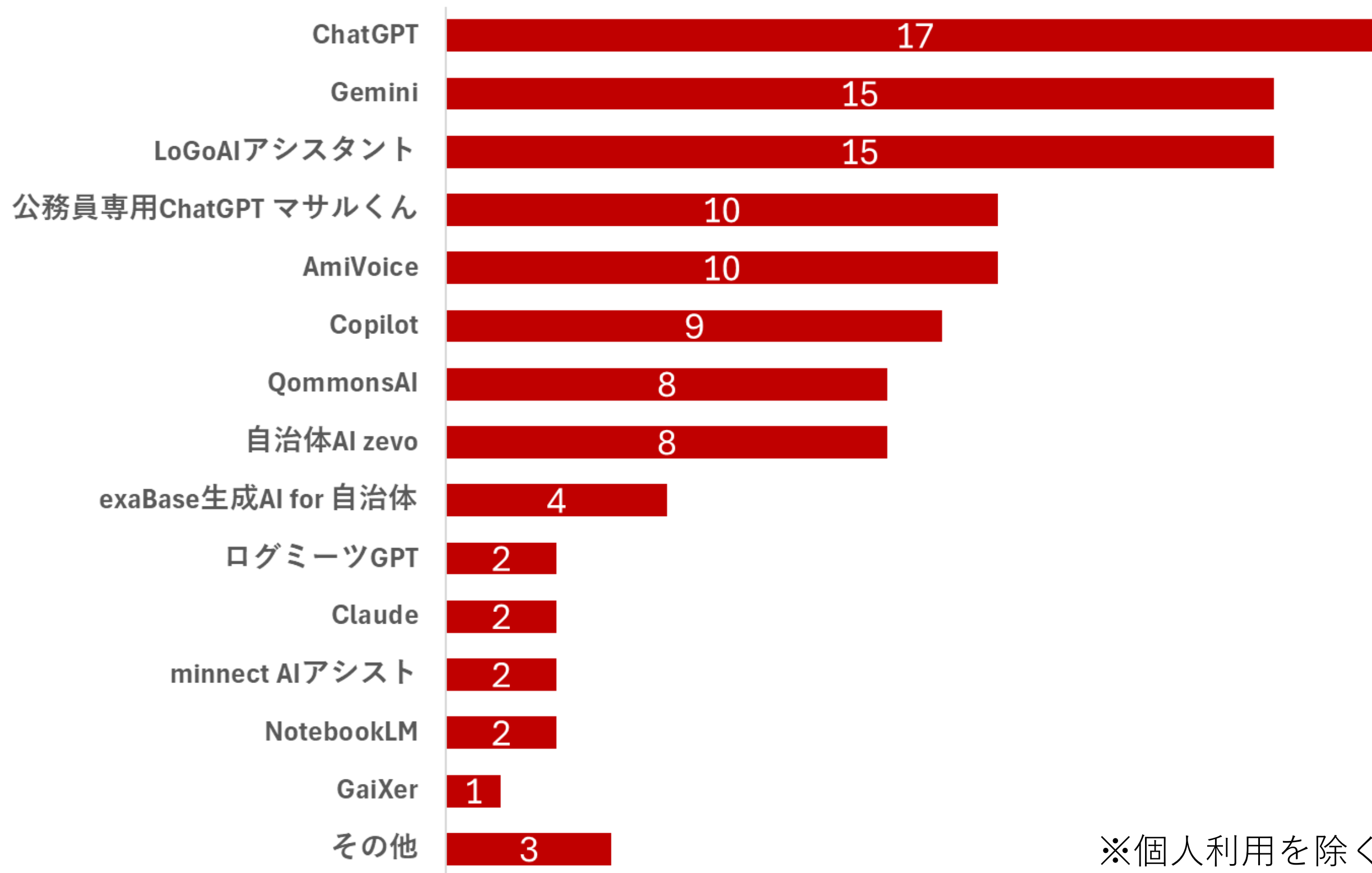


生成AIは議会独自のものですか？ 執行部のものと共用ですか？



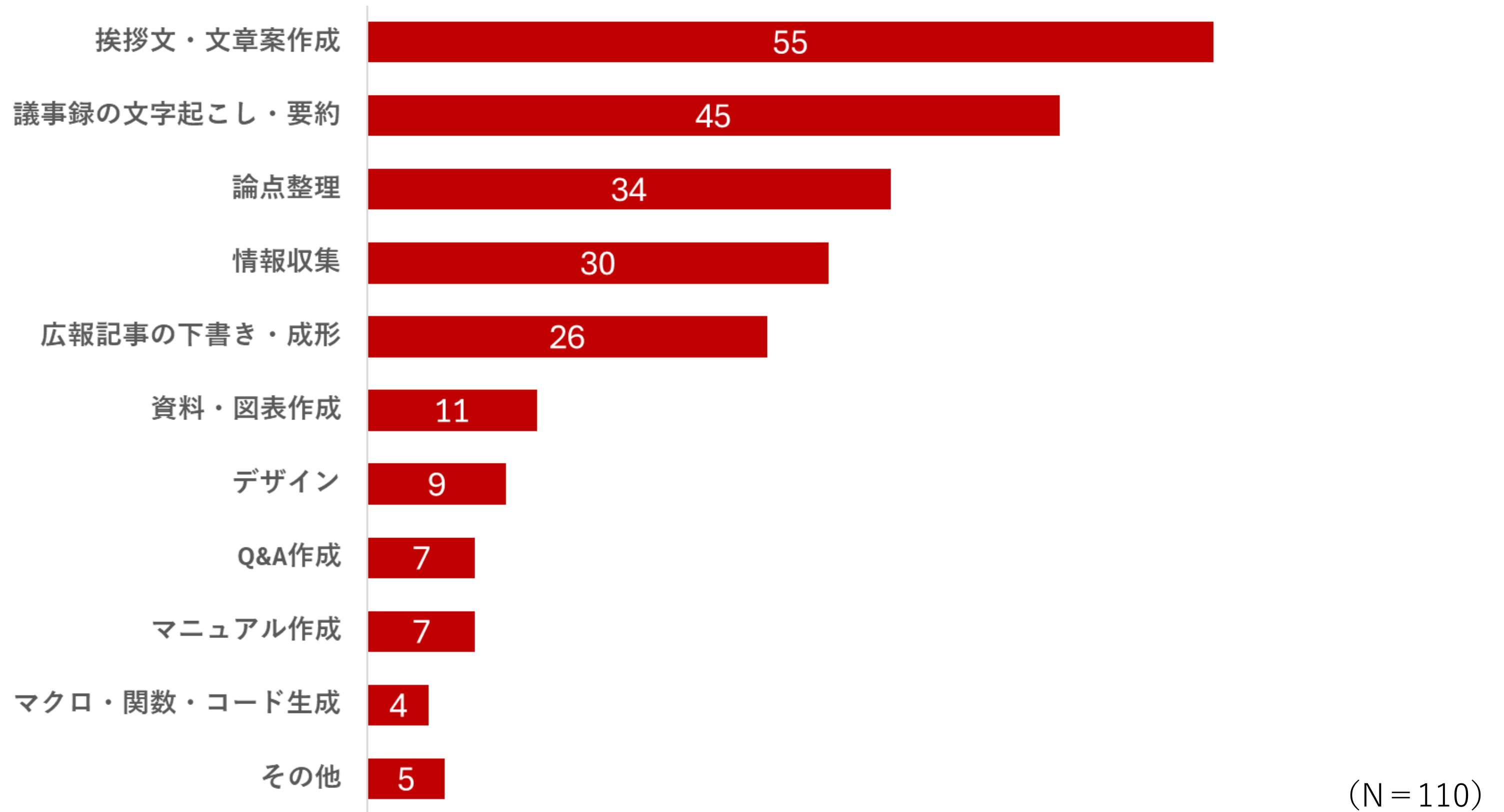
(N = 110)

どんな生成AIを使っていますか？

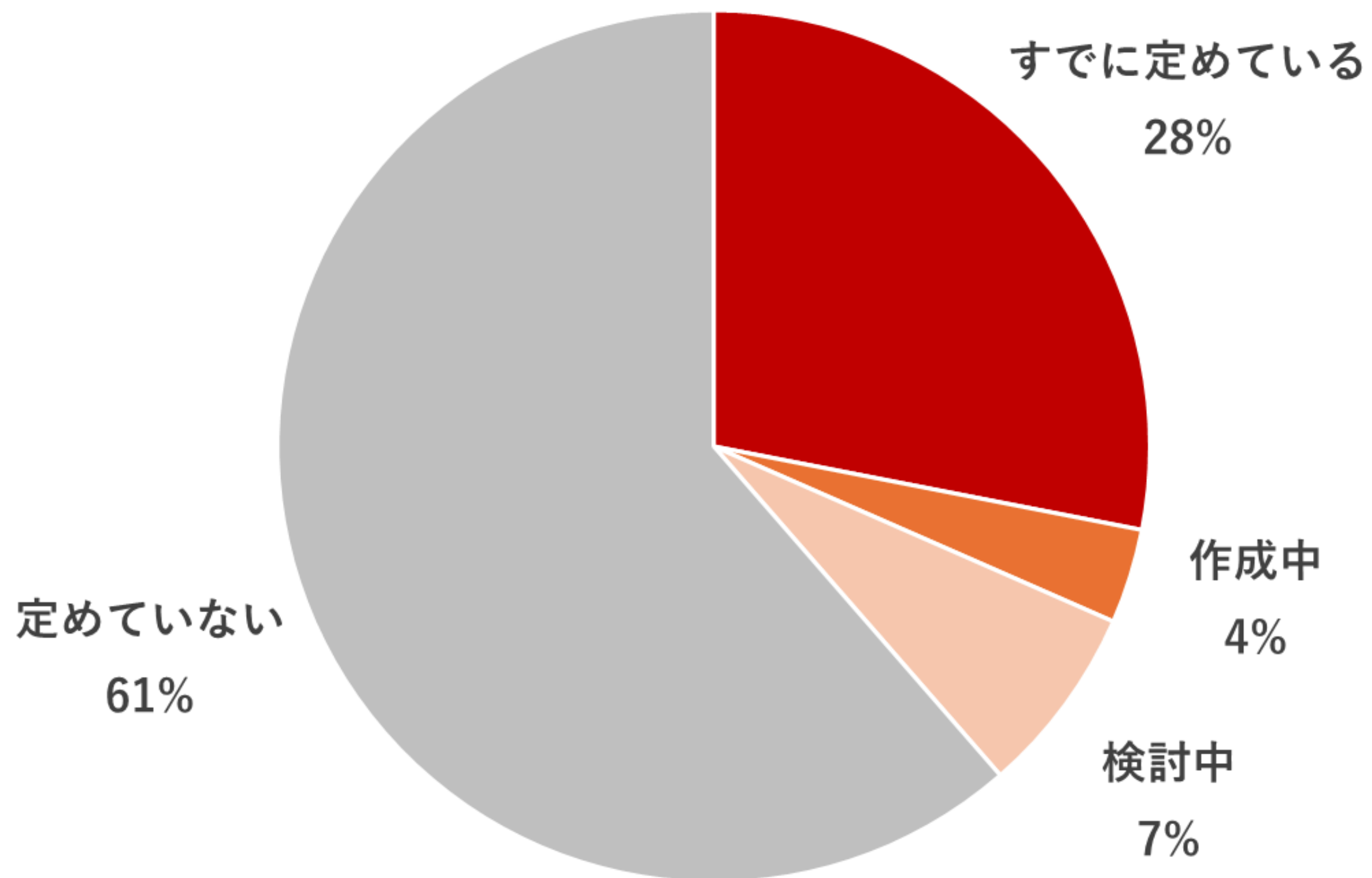


※個人利用を除く（N=91）。複数回答。

どのような業務・用途に使っていますか？（複数回答）



生成AIに関する明文化されたルールやガイドラインは定めていますか？



(N = 57 既に生成AIを使っている議会)

生成AIを事務局で活用する場合に感じる課題・リスク

< 項目 >

< 具体例 >

① 正確性・ハルシネーション

- ・生成された情報の正確性に不安がある。
（情報の正確性は必ず確認する必要があると考えています）
- ・議事録作成の精度や要約の内容に不安がある。
- ・生成内容のファクトチェックが必要になる。

② 情報セキュリティ・情報漏洩

- ・機密情報の取り扱いや、情報漏洩の可能性など情報セキュリティ上のリスクがある。
- ・システム部門との調整が必要。

③ 職員のリテラシー・AI依存

- ・ITのリテラシーがない職員が利用しにくい。
- ・AIに対する理解が足りていない。
- ・生成AI頼みになってしまう可能性。（考えなくなってしまうのではないか）

④ 活用ノウハウ・プロンプト

- ・プロンプトの作り方が難しい。
- ・AIへの知識差による作業の属人化
- ・議会運営でどのように使えば効果的か分からない

⑤ 業務運用・組織課題

- ・導入コストがかかる。
- ・議員がAIで作成した資料のチェックの負担が増える。
- ・事務局での運用ルール整備が必要。